

藝 振



大分県芸術文化振興会議

No.113

平成15.3

も く じ	
個と共生をキーワードに ーやがて60年の県美協ー	1
平成14年度芸術文化関係受賞者等一覧	2
開幕行事 オペラ「青の洞門」	3
平成14年度基金事業報告	4
平成14年度の芸振会議	5
H15.4～9月開催予定の補助事業	5
海外派遣研修報告	6
加盟団体活動紹介	7
事務局だより	8

発行人：脇 正人 編集人：小手川義光 (題字：平 威瑛)



個と共生をキーワードに ーやがて60年の県美協ー

大分県美術協会

会 長 脇 坂 秀 樹

大分県美術協会には昭和40年（1965）の三部会統合以前に20年近い歴史があり、平成16年（2004）に40周年を迎える現県美術協会と合わせるとその歴史は60年に及ぶ。21世紀のキーワードといわれる「個と共生」、「異能共生」を標榜し続けた歴史と伝統がある。現行会則、運営機構の完備は他県には類がない良いものと思っている。

昨年4月、県美術協会は昭和62年（1987）以来15年ぶりに「協会便覧」を発刊した。開かれた美協、手順を踏んだ運営について会員や関係の方々に改めて共通の理解を持っていただくためである。

内容を列挙すると、①県美術協会沿革 ②歴代役員（三役）③役員（現）④代議員（現）⑤名誉会員、客員 ⑥顧問 ⑦会則・運営細則 ⑧本部の役割 ⑨構成と運営 ⑩県美術展募集要項（日洋彫工部会・書道部会・写真部会）⑪県美術協会年間計画概要 ⑫大分県美術協会と共催機関団体との関連 ⑬県美術展の実績 ⑭周年行事について ⑮県美協のシンボルマークの由来 ⑯編集後記 となっている。

また、「便覧」には収録されていないが、各部会には作家団体として部門の独自性を補完した部会則が整備されている。それぞれの部会の個性を活かし、県美展では三部会展が良い意味の競争と協調を通して「県美展全体」として年々盛大に発展してきており、喜ばしい。

展覧会は作家作品の個性、企画展示広報、鑑賞者の三位一体といわれる。県美術協会がやがて60年を迎えようとする今、県美術展全体の在り方や県美術協会の未来に向けての対外的、部内的役割を各部会長（副会長）と共に誠実に地道に果たしていきたい。



池部俊之（県美協会員）

第14年度芸術文化関係表彰(賞)者

文部科学大臣表彰・地域文化功労者
大分県知事表彰・文化振興功労者

大分合同新聞文化賞・芸術文化
二科会写真部功労賞・秋山庄太郎賞

倉田 紘 文 (「落」発行所主宰)
大分県歌人クラブ (代表 伊勢方信)
大分第9を歌う会 (代表 野崎 哲)
藤 間 茂登女
大 崎 聡 明

第4回大分県民芸術文化祭受賞行事一覧

賞	受賞行事	受賞団体	理 由
大 賞	開幕行事 オペラ 「青の洞門」	オペラ「青の洞門」実行委員会	本耶馬溪町の貴重な文化遺産である「青の洞門」の物語を新しい形で後世に語り継ごうと国内一流のスタッフによりオペラ化した。 町民が様々な形で制作に関わりながらスケールが大きく、かつ芸術性の高い作品に仕上げ、観客に感動を与えた。
奨励賞	若者文化イベント 俵楽の郷 雅楽&Jazz スペシャルセッション	緒方町伝統伝承館 「俵楽の郷」	地場で活躍する雅楽のグループと全国的に著名なジャズ奏者がジャンルや経験を越えて競演し、農村文化の伝承施設「俵楽の郷」から新たな文化の発信を試みた。
奨励賞	中幕行事 世紀音楽文化 2002音の祭典 大分県音楽団体協議会第10回音楽祭	大分県音楽団体協議会	協議会に加盟する多彩なジャンルの音楽団体が県内各地の素材をテーマに、バラエティに富んだ演奏や合唱を披露し、第10回の節目にふさわしい音楽祭に仕上げた。
奨励賞	開幕行事 民謡の祭典	大分県民謡連盟	開幕行事にふさわしく総勢千二百名を越える出演者が重量感と躍動感にあふれる日本民謡を披露し、華やかなステージを繰り広げた。
奨励賞	共催行事 歌曲の会第10回記念演奏会 「海を渡ってきた愛唱歌」	歌曲の会	第10回を記念して、古くから日本語の歌詞で親しまれてきた外国の愛唱歌を弦楽やフルート、ピアノの調べとともに紹介し、懐かしくも新鮮な演奏会を演出した。
奨励賞	地域文化フェスティバル ふるさと文化交流フェスティバル 「第5回字目の唄げんかまつり」	第5回字目の唄げんかまつり実行委員会	「字目の唄げんか」をはじめとする地域伝統芸能の保存継承イベントとして定着し、住民の伝承意識の高揚と郷土愛の創出に大きな成果を上げている。
奨励賞	地域文化フェスティバル 「童話の里」と「仏の里」 の文化交流 10周年事業文化交流10周年祭	「童話の里」と「仏の里」文化交流10周年実行委員会	玖珠町文化振興会と国東町文化協会の姉妹提携10周年を記念して、両町の団体が一堂に会した合同文化祭の開催により、相互の研鑽と交流を図り、文化レベルの向上に大いに寄与した。
奨励賞	地域文化フェスティバル 第4回全国薬こずみ大会 in 大分・安心院 ～薬のアート～	第4回全国薬こずみ大会実行委員会	全国からの参加者が、農村の晩秋の風物詩であった「薬こずみ」の美しさや独創性を競い合い、農村景観保全の重要性を広くアピールするとともに、素朴な農村文化の素晴らしさを描き出した。
奨励賞	参加行事 平成14年度 ときめき作品展	大分県障害者社会参加推進協議会	様々なハンディを持つ人々が生活の中で学んだこと感じたことを、各自の能力の集大成として発表した。県内各地から出品された5部門200点に及ぶ作品のひとつひとつが観客に勇気と感動を与えた。
奨励賞	参加行事 淡窓伝光霊流大分詩道会 発会45周年記念吟剣詩舞道大会	淡窓伝光霊流大分詩道会	永年にわたり、日本古来の伝統芸能である吟剣詩舞の振興と発展に貢献した実績をもとに、発会45周年の節目にふさわしく、2000人に及ぶ出演者や企画構成番組「赤穂義士」など、充実した内容の舞台を創りあげた。
特別賞	オープニングステージ 中世府内物語 宗麟南蛮絵歌留多 (そうりんなんばんえかると)	オープニングステージ制作者一同	郷土の雄、大友宗麟にまつわる物語を親しみやすい脚本と若々しい演出で舞台化し、観客を惹きつけた。西洋文化の花咲く中世豊後府内の様子を見事に表現するとともに、西洋古楽、郷土芸能、合唱、ゴスペルなどを効果的に配置し、県民からの一般参加者も一体となって舞台を創り上げた。 同時開催した大友館等からの出土品の展示も会場を盛り上げた。



「青の洞門」 大分県民芸術文化祭賞大賞を受賞して

大分県県民オペラ協会

会長 小長久子

初めて作曲者原嘉寿子先生を本耶馬溪の青の洞門へご案内したのは平成11年2月、本耶馬溪町役場を訪れ、郷土史家の神崎哲先生にご案内いただいた。そして12年9月の台本完成、キャスティングをして作曲（ヴォーカルスコア）が完成したのが13年4月であった。

舞台美術の朝倉摂先生、演出の桂直久先生も来県されて現地本耶馬溪をご覧になった。本耶馬溪町では女声コーラス“もみち”が結成され、「オペラ青の洞門実行委員会」も立ち上がった。オーケストラは九州交響楽団。指揮者には別府市出身でブザンソン指揮者コンクール2位の経歴を持つ鳴戸教育大学助教授山田啓明氏を今回はじめて迎えることとなった。

こうして3年の歳月をかけた菊池寛作、「恩讐の彼方に」より「オペラ青の洞門」原嘉寿子台本・作曲はいよいよ10月6日、第4回県民芸術文化祭開幕行事としてグランシアタで公演の日を迎えた。

朝倉摂先生の簡素ながら壮大な舞台に室伏生大氏の照明による心理的な描写が相まってその効果は見事であった。舞台に立つ人にも、舞台を支える人々にとっても氏の仕事は得るところが大きかったことだろう。さらに山田啓明氏の指導、指揮は出演者の力を最大に引き出してくださった。皆、このような舞台に関われたことに無上の幸せを感じたことだろう。

そして、開幕行事「オペラ青の洞門」は14年12月18日第4回大分県民芸術文化祭賞大賞を受賞の栄に輝いた。この受賞は私たちの大きな支えになり、励みになった。厚くお礼申し上げたい。

また、この受賞に先立ち、本耶馬溪町でも11月2日6時から青の洞門の現地“禅海ひろば”に舞台を組み、野外オペラを上演した。筑紫哲也氏も取材に見えるなど県内外のマスコミにも多く取り上げられた。小雨まじりの寒い夜であったが、1500席の椅子を広場に並べた客席は町民を始め遠来の観客であふれた。ライトアップされた大自然の美しさはそのまま舞台になった。

さらに、15年1月25日、東京文化会館での“舞台芸術創造フェスティバル2002”公演。熱気につつまれ、暖かい拍手が鳴りやまない会場。ある評論家の先生は言われた。「日本のオペラ史に残る公演となるでしょう。」と。

日頃からご支援くださっている県民の皆様方のおかげと感謝している。



H14.10.6 グランシアタ

平成14年度基金事業報告

大分県芸術文化振興会議では自主事業として昭和60年からファミリー芸術劇場、学校巡回公演、文化キャラバンを実施しています。

今年度は初めて邦楽、ハンドベル、和太鼓の公演が加わり、ファミリー芸術劇場2会場、学校巡回公演15会場、文化キャラバン2会場を下表のとおり実施しました。

種別	市町村名	鑑賞者数	会場名	実施日	公演団体
ファミリー 芸術劇場	久住町	270	久住町中央公民館	9月27日	別府女子短期大学ハンドベルリンガーズ
	国見町	168	国見町生涯学習センターみんなかん	1月26日	大分県庁職員吹奏楽団
学校巡回 公演	宇佐市	50	西馬城小学校	5月2日	カサ・デ・ギターラ
	日田市	131	静修小学校	5月14日	別府女子短期大学ハンドベルリンガーズ
	山香町	80	東山香小学校	5月15日	グループUNO
	本匠村	50	本匠西小学校	6月10日	大分県人形劇サークル協議会
	日田市	610	咸宜小学校	6月11日	YOの会
	直入町	171	長湯小学校	6月20日	大分県県民オペラ
	国見町	516	国見町生涯学習センターみんなかん	7月15日	合唱団藍
	久住町	170	久住・都野中学校 中央公民館	7月18日	グループUNO
	佐伯市	500	佐伯市	8月2～4日	大分県美術協会(高山辰雄ジュニア県美展巡回展)
	姫島村	150	姫島中学校	10月15日	大分県三曲協会
	津久見市	36	越智小学校	10月17日	大分県人形劇サークル協議会(人形劇場すもーる)
	本匠村	62	本匠中学校	10月25日	大分県三曲協会
	挾間町	507	はさま未来館	12月9日	大分大学マンドリンクラブ
	宇佐市	283	宇佐中学校	12月17日	YOの会
安岐町	364	安岐小学校	2月2日	豊後つるさき参勤太鼓	
文化 キャラバン	日田市	520	日田市民会館	10月17～20日	大分県美術協会(書道)
	蒲江町	720	蒲江町中央公民館	11月12日	大分マンドリンオーケストラ



学校巡回公演 H14.10.25 本匠中学校
演奏会の後、指導や説明を受ける生徒達



ファミリー芸術劇場 H14.9.27 久住町中央公民館
ハンドベル演奏会

大分県芸術文化振興会議40周年記念事業企画委員会の設置

大分県芸術文化振興会議は、平成16年に設立40周年を迎えます。

平成14年の会議では、例年の事業の企画・実施についての審議に加え40周年記念事業について協議をし、10月22日第4回理事会において企画委員会を設置しました。

企画委員は12月5日第5回理事会で選出、承認され、15年1月16日に第1回企画委員会を開催しました。

大分県芸術文化振興会議40周年記念事業企画委員名簿

	部 門	氏 名
	委 員 長	脇 正 人
1	文 芸	佐々木 均太郎
2	文 芸	倉 田 紘 文
3	美 術	脇 坂 秀 樹
4	音 楽 (洋)	小 長 久 子
5	音 楽 (洋)	辛 島 光 義
6	音 楽 (和)	安 東 陽
7	舞 踊 (洋)	佐 藤 朱 音
8	舞 踊 (和)	花 柳 笹之丞
9	演 劇 (副委員長)	中 沢 とおる
10	総 合	横 田 耕 作
11	地域文化・能楽・生活文化文化財	中 野 幸 和
12	その他学識経験者等	狭 間 久

H15.4～9月開催予定の補助事業

実施時期	事 業 名	会 場	主 催 団 体
4月14～20日	第17回二科会大分県支部写真・デザイン公募展	大分県立芸術会館	二科会大分県支部
4月26日	平成15年度春季地方演奏会	日田市民会館	大分大学マンドリンクラブ
4月及び7月	子どもの世紀21キャンペーン事業第7回大分県子ども舞台芸術フェスティバル	未定	大分県子ども劇場連絡会
5月20～25日	'03春季大分県美術展	大分県立芸術会館	大分県美術協会(日洋彫工部)
5月中旬	第51回短歌大会	大分文化会館	大分県歌人クラブ
5月上旬～中旬	2003年春季公募展 大分県美術展書道展	大分県立芸術会館	大分県美術協会(書道)
5月	'03春季県美展写真展	大分県立芸術会館	大分県美術協会(写真部)
6月1日	第23回公演	コンパルホール	劇団OTC
6月14日	花の会ジョイントコンサート	未定	花の会
6月24～29日	第30回行動大分作家展	大分県立芸術会館	行動大分作家協会
6月、9月、2月	第24回九州国画写真展 大分県支部展 他	大分県立芸術会館	九州国画会
7月7日	第32回都山尺八演奏会	大分市能楽堂	都山流尺八楽会大分県支部
7月13日	第27回大分県マンドリン連盟フェスティバル	大分県立芸術会館	大分県マンドリン連盟
7月	第50回歌帖社全国短歌大会	豊泉荘	歌帖社
8月24日	第16回大分県青少年少女合唱祭	大分県立芸術会館	大分県青少年少女合唱連盟
8月26～31日	'03大分自由美術展	大分県立芸術会館	大分自由美術
8月31日～9月7日	第46回別府市美術展	未定	別府市美術協会
8月中旬	2003大分二紀展	大分県立芸術会館	大分二紀会
8月または9月	第33回りぶの会展	大分県立芸術会館	りぶの会
8月初旬	日韓現代絵画交流展	アートプラザ	日韓現代絵画交流展実行委員会
9月14日	萬謡会民謡フェスタ2003	大分市能楽堂	萬謡会
9月15日、11月	第31回大分県音楽コンクール予選会・本選会	大分県立芸術会館	大分県音楽協会
9月21日	第27回定期演奏会	グランシアタ	大分交響楽団
9月～11月	創作舞踊研究会 第18回公演	かんたん俱樂部	創作舞踊研究会

この開催予定は平成14年10月31日現在のものです。詳しくは主催団体におたずねください。



ヨーロッパ美術研修・スペインを中心に

岩尾善幸

ピカソ、ミロに次ぐスペインの画家、アントニ・タピエスを訪ねること。また、ヨーロッパの美術を見直し、今に生きる現代作家の作品に触れることで、ここ数年間の自分の仕事に決着をつけたと思っていた。

まずはパリ。ポンピドゥセンターは20年前とは違い、世界の現代作家がたっぷりと紹介されていた。意外に平面的な抽象作品はなく、空間の抜けを重視するかのような具体性を帯びた作品が目立ち、抽象、具象を越えた“絵画の空間の可能性”を感じた。次にバルセロナ。「普遍的であろうとするならば、自身の土地に深く根ざしてなければならない」と語ったジョアン・ミロは、絵の具の赤や黄、青色を生まれ育ったカタルーニャの鳥や草花、そして空の色に置き換えて考えていたと言う。タピエス美術館の映写室では、アトリエでの制作風景やカタルーニャの歴史が紹介されている。山奥のアトリエ、床に置かれたキャンバスに、土やワニスを投げつけては削る。戦争や政治的混乱による枯渇感を、新しい生命のサイクルとして創り出す姿勢にリアリティーを感じた。タピエスは僕の画集を見ながら、絵画の空間性や考え方をアドバイスしてくれた。それまでの絵画への迷いが消えて、今後の制作に手応えを感じた。マドリードのプラド美術館のグレコ、ベラスケスは胸を熱くした。地元ギャラリーのレセプションへの参加や、25年間スペインに住み、活躍している画家・堀越千秋との再会も貴重なものだった。

ビルバオのグッゲンハイム美術館はスペイン出身の現代作家、マノル・バルデス展に感動した。自前の芸術を堂々と世界に問う姿勢はたのもしい。すばらしい芸術は、国境や時代を越えて伝わって何かがある。その普遍性は、僕が住む臼杵の海や空、自然のひとつひとつに繋がっている。世界の芸術に、どこまで近づけるのか分からないが、自分の足元、その視線の先に広がる光景のイメージから“お前が感じたものを表せ”と言うのなら、僕にもできることがあるかも知れない。



タピエス夫妻とともに



子どもに夢とロマンを そして心にともし火を

大分県児童文化研究会 代表 首 藤 悦 爾

平成15年大分県児童文化祭は40周年の節目を迎える。子ども達の輝く瞳を求めて、毎年1回県内各地で巡回公演してきた。今年度は挾間町「未来館」で11月に開催。会場は終始子どもや親たちの笑顔で満ちあふれた。

出演は、県内外の児童文化各サークル仲間。口演童話・人形劇・わらべ唄・腹話術・大型紙芝居を始め、新しいプログラム、エプロン・パネルシアターも加わって舞台にいろどりを添えた。

また、今年22年目となるおはなしの会は「お話を話す・聞く・読むのが好きな子ども」こんなめあてを掲げて、大分市コンパルホールで年間10回公演している。会員は幼稚園、小学校低学年の約50名。お話活動を中心に、子どもにも出演の機会を与え、子ども自身が創り出す力も養っている。さらに研修を重ねて童話の語り方の向上に努め、これを普及していきたいと願っている。



H14.11.17 はさま未来館



蒼土会結成50年に思いをはせて

蒼土会 代表 松 村 博 行

昭和27年戦後間もない別府で、絵を学んでいた5人の若者、吉田富士美・西村駿一・島川隆介・平木勇・小手川慧が県美展に全員で出品。全員入選を機にグループを結成、名称を「蒼土会」としました。

第1回展を旧別府中村百貨店で旗揚げ、以後市内の中村百貨店、大分県観光物産館で作品の発表を続けました。昭和42年12回展から会場を大分に移し、OBSサービスホールで開催。第29回展は開館間もない大分県立芸術会館で開催し、昨年の47回展へと続いています。

また近隣近県へのスケッチ、展覧会鑑賞会も行っていますが、特に平成10年に実現したパリ美術館巡りの旅ではルーブル、オルセー、オランジュリー、マルモタンその他数々の美術館を訪ねました。多くの名作に対面した感動、感激の素晴らしい価値ある6日間でした。

今年は48回展を7月8日～13日まで、芸術会館で迎えます。さらに50回記念展に向けても充実した内容の作品展にすべく制作に励んでいます。



ルーブル美術館にて

